

## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第1回
	実施日	令和7年4月19日（土）
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	14人
	テーマ	中心商店街にぎわい再生事業費補助金募集要項説明会
	講師	伊勢崎市（商工労働課職員）

内容	<p>商工労働課職員が講師となり、補助金の趣旨と応募方法の説明を合計4回行いました。</p> <p>今回から希望金額が一定以上の場合、次回の未来学校開催時に自らプレゼンテーションを行う必要があるという点を踏まえて、発表すべき項目や時間配分等についての説明を行いました。</p> <p>同時に、会場内で前年度の補助金採択事業の活動内容の紹介を行い、参加者からは「他の人たちの事業概要が知れてよかったです」などの声をいただきました。</p>
----	--

当日写真		
------	---	--

## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第2回
	実施日	令和7年5月17日（土）
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	25人
	テーマ	中心商店街にぎわい再生事業費補助金公開プレゼンテーション
	審査員	伊勢崎市まちなか活性化支援会議委員

内容	中心商店街にぎわい再生事業費補助金について、交付希望金額が一定以上となった8事業者から事業提案を発表いただきました。その後は、各審査委員から審査項目である「事業の公益性」、「地域との連携協働」、「自立と持続の可能性」、「経費適正・公平性・透明性」に基づいた質疑と、改善点等についての意見交換が行われました。今回は、公開プレゼンテーションを行ったことで、他事業との比較が浮き彫りとなり、事業内容や経費面において鋭い質問が飛び交いました。 なお、事業採択の可否は、書類審査となっている事業を含めて、後日各事業者へ連絡が行われました。
----	---



## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第3回
	実施日	令和7年6月21日（土）
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	27人
	テーマ	ぐんまでの映画づくりと俳優教育
	講師	飯塚 花笑

内容	「ぐんまでの映画づくりと俳優教育」ということで、前橋市在住の映画監督、飯塚花笑さんが自身の幼少期からの生い立ちと映画との出会い、作品づくりを通じて前橋市でのスタジオ創設までを軽妙なトークで語っていただきました。映画撮影が地域に及ぼす金銭的な影響力を実際の数字で説明され、俳優教育が地域づくりに繋がっていくということでした。 後半は参加者全員参加で、俳優が実際に実行している内容で演技ワークショップが行われ、舞台さながらの大きな声で演技の基礎を学び、映画づくりを身近に感じる1日となりました。
----	--



## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第4回
	実施日	令和7年7月24日(木)
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	21人
	テーマ	地域で彩りを混ぜ合わせながら暮らす
	講師	片山 翔平

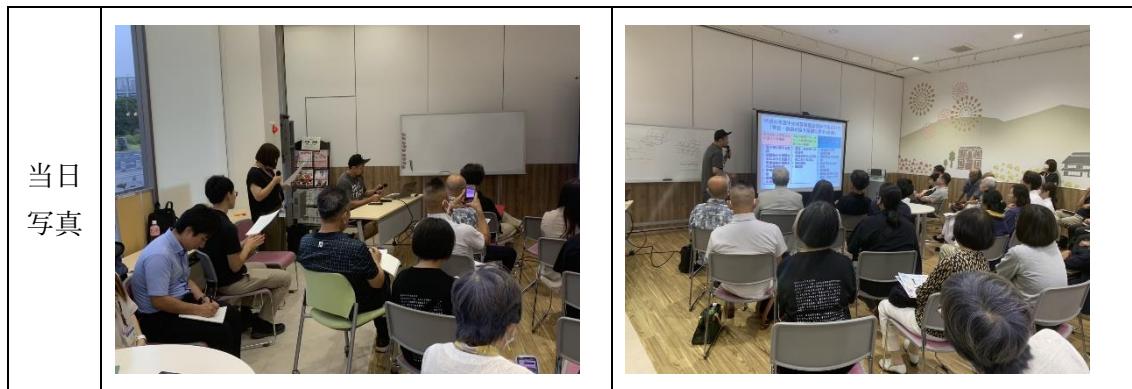
内容	様々なまちづくり事業に取り組んでいる講師の片山翔平さんから「地域で彩りを混ぜ合わせながら暮らす」を題材に、エリア再生についての講義をいただきました。 みどり市内大間々エリアにシェアスペース「Haji-Maru」の立ち上げと、サブリース募集の難航から、「まずは自分がリスクを取る」という思いに至った経緯について、コミカルな口調で説明され、様々な人々が集える場所づくりのため、サブリース事業の他、本棚オーナー等、事業の複合化でエリアの価値と密度を高めていくことの重要性が語られました。 参加者には、日常を変えていくためのキーワードとして、「小さく始めること」と「挑戦し続けること」の大切さを持ち帰っていただきました。

当日写真		

## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第5回
	実施日	令和7年8月26日(火)
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	51人
	テーマ	伊勢崎のマチとヒトに期待すること(+ついでに自らの野望)
	講師	臂 徹

内容	<p>全国の地方都市で中心市街地の活性化やまちなか再生に取り組む臂徹さんが「伊勢崎のマチとヒトに期待すること」という題材で、まちなかの現状に対して歯に衣を着せぬ挑戦的な内容で語っていただきました。</p> <p>駅周辺の区画整理事業に至るまでの歴史的経緯から、現在のドーナツ化現象とスプロール現象が同時に進行した状況、今後の方向性についての解説がなされ、市民自らが意思をもってまちづくりに参画してほしいというメッセージを残されました。</p> <p>講義終了後、熱気冷めやらぬまま会場内に残る参加者が多く、その反響の大きさを物語っていました。</p>
----	---



## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第6回
	実施日	令和7年9月9日（火）
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	22人
	テーマ	楽しくなくっちゃ仕事じゃない！「目標を持った行動こそが未来を創る」
	講師	島田 渉

内容	『楽しくなくっちゃ仕事じゃない！「目標を持った行動こそが未来を創る」』を題材に、島田工業株式会社の島田渉さんが登壇し、パーパス（会社の存在意義）と経営理念の設定について語っていただきました。 パーパスを作るまでのきっかけや、参加者にのみ語られた制作代金の発表などもありましたが、会社の将来ビジョンを社員全員に浸透させるためにイメージイラストを作る等、製造業でありながら形のないものへの投資により、プラント理念を浸透させるための大きな成果に繋がっているとのことでした。
----	--



## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第7回
	実施日	令和7年10月21日(火)
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	25人
	テーマ	日本一熱かった伊勢崎～10歳でもわかる！気候変動を学んで、コミュニケーション力アップ講座！？～
	講師	富所 哲平

内容	ご登壇いただいた富所様は、参加者同士のコミュニケーションをとる機会を頻繁に設けるなど、楽しい雰囲気の中で環境問題について語っていただきました。平均気温が2°C上昇するとミツバチが絶滅する。ミツバチが絶滅したら全世界の70%の食べ物が無くなる。地球温暖化の影響でユーカリが自然発火し、森林火災で8,000頭のコアラが亡くなっているなど、実例を交えながら自分たちの行動があらゆることに繋がっていることを気づかせていただきました。今回の講演は、知らないことを知ることが学びであり、知ることで考え方や行動が変わることが成長。つながりを知ると世界の見え方が変わることを学べる回となりました。
----	--

当日写真		
------	---	--

## まちなか未来学校 実施結果

概要	イベント名	いせさきまちなか未来学校 第8回
	実施日	令和7年11月26日（水）
	会場	伊勢崎駅前インフォメーションセンター
	参加人数	35人
	テーマ	第1部講演 「市民におまかせ？良いかげん市政」 山本 龍 第2部講演 「市民が面白がるまちづくり」 日下田 伸 第3部 「3者によるクロストーク」 臂 徹（モデレーター）
	講師	山本 龍、日下田 伸、臂 徹

内容	<b>【第1部】</b>  前橋市のまちなかに賑わいが生まれつつあるのは、市民や経済人が活動した成果である。民間の人々が自由に活動できることが重要であり、こうした活動をしてもらうために、市はルールを作る必要がある。  また、「まちはお金を動かすところ」であり、里山資本主義のように地域の資源やお金が地域内で循環する仕組みが必要である。地域通貨を活用し、地元での消費を促し、集めたデータを施策に活用していくことも重要である。
	<b>【第2部】</b>  経営戦略フレームワークでは、目標・ビジョン>戦略>戦術の順に考えていくが、まちづくりも同様である。抽象的なまちのビジョンで、抽象的な取組をしても、抽象的な結果にしかならない。スマートプレイヤーの集合体がまちを作っているが、ビジョンがあるまちのほうが強い。「どういうまちにしていくのか？」というビジョンを共有することが重要。
	<b>【第3部】</b>  ☆テーマ1：めぶく。の話  (臂) ビジョンの設定はバックキャスティングが一般的だが、めぶく。についてはフォアキャスティングのように思われる。 (山本) みんながやりたいことをやっていこうよということを伝えたい。 (日下田) 行政経営でこれを定めたことが凄い。めぶける土壌があると示したことが重要。

☆テーマ2：地方分権はどうあるべきか？これから、市町村間での連携や相互補完が必要となる分野として、どのようなものが想定されるか？

(山本) 自治体間を跨るタクシーを運行するなど、交通インフラを整備することが重要。今後は自治体間で連携することが今まで以上に必要になってくる。

(臂) 市民の理解が得られるとは限らない。どのようにネガティブな意見に対応していくか。

(山本) 必要性を理解してもらうしかない。自分の生活に置き換えて考えてもらうと実感がわきやすい。

(日下田) 一時的には不便になるかもしれないが、将来を見据えて判断してもらうことが重要。

当日  
写真

